第11回広島湾水質一斉調査

～本年9月に、各機関が連携して広島湾において水質一斉調査を行います！～

広島湾再生プロジェクトでは、水質一斉調査の結果を活用することにより、広島湾の赤潮や貧酸素水塊（※１）の発生メカニズムの解明や対策の検討を進めていきたいと考えています。

水質一斉調査実施時期　令和元年9月2日（月）～9月13日（金）

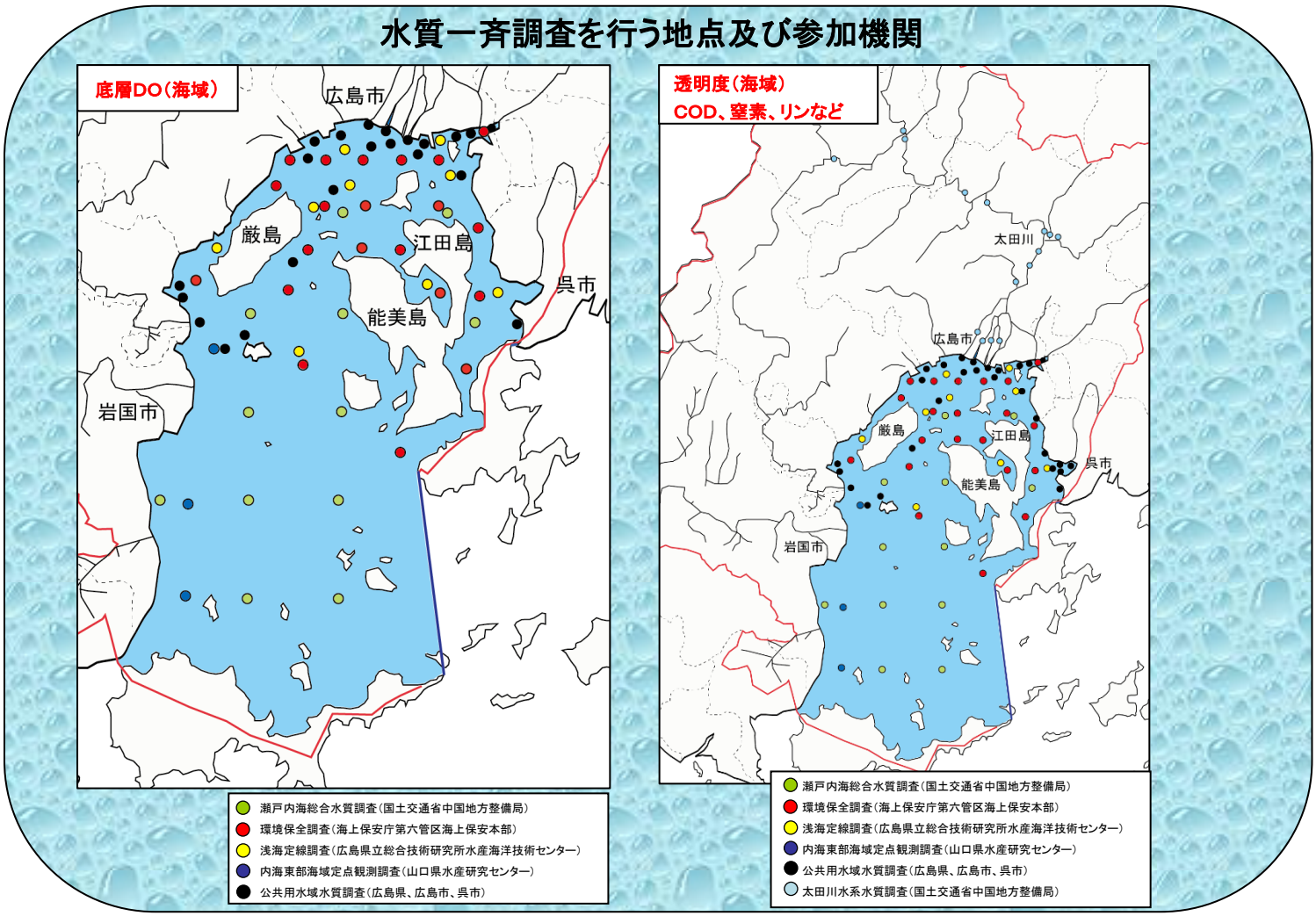
「調査項目」

○広島湾再生プロジェクトでは、**「底層DO（※2）」**と**「透明度」**の2つを定量的目標（※3）として掲げており、目標達成状況を評価するために**「底層DO」と「透明度」を共通調査項目に設定。**

○貧酸素水塊は主に広島湾北部海域の海底付近を中心に発生しており、**底層DOは、海底面上 0.5m～2m の深さで測定を実施。（同時に、水温、塩分についても測定を実施）**

○広島湾に流入する河川では、汚濁負荷の指標である COD（※4）、窒素、リン（※5）などの測定を実施。

水質一斉調査を行う地点及び参加機関



（※1）貧酸素水塊
水中の溶存酸素濃度が低下した状態の水の塊のことをいいます。主に夏季に発生し、海底付近に生息する生物が死滅するなどの悪影響を及ぼしています。

（※2）DO（溶存酸素量）
海水中に溶け込んでいる酸素量で、水質汚濁状況を測る指標の一つ。海水中のDOが減少すると生物が呼吸できなくなったり、水中の好気性微生物の活動が鈍り水質浄化能力が衰えるなど、様々な問題を引き起こすといわれています。

（※3）定量的目標
夏季底層DOの最低値が、2mg/L 以上。夏季透明度が、北部海域で 1m 以上。

（※4）COD（化学的酸素要求量）
水中の有機物等を酸化剤によって酸化する際に消費する酸素量のことをいう。代表的な海域の水質指標として用いられ、数値が大きくなるほど有機物等が多量に含まれており、汚濁していることを示す。

（※5）T－N（全窒素）、T－P（全リン）
T－Nは、アンモニア、硝酸、亜硝酸など全ての窒素化合物を合わせた窒素の量であり、T－Pはリン酸、ポリリン酸その他動植物中のリンなど、水中に存在するリン化合物を合わせたリンの量である。排水などに含まれる窒素やリンが海域や湖沼に過剰に流入すると富栄養化し、赤潮の発生など水質悪化の原因となる。

「水質一斉調査結果の活用方法」

〇広島湾再生プロジェクトの定量的目標（底層DO、透明度）の達成状況の把握
〇広島湾の水質汚濁メカニズムの解明や効果的な水環境再生対策手法の検討
〇国、自治体、研究機関、NPOなどによるモニタリングデータの共有及び有効活用　など

「問い合わせ先」

〇「水質一斉調査」に関すること
　第六管区海上保安本部　海洋情報部海洋調査課　TEL 082-251-5111（内線 2535）
〇「広島湾再生プロジェクト」に関すること
　国土交通省中国地方整備局企画部広域計画課　TEL 082-221-9231(代表)

「広島湾再生プロジェクトについて」

　広島湾再生プロジェクトとは、関係省庁や自治体などが連携して海の再生を推進する「全国海の再生プロジェクト」の一環として、広島湾において実施する取り組みのことをいいます。
　同プロジェクトの一環として、広島湾再生推進会議（※6）を設置し、平成 19 年 3 月に「広島湾再生行動計画」、平成 29 年 3 月に「広島湾再生行動計画（第二期）」を策定しました。
　行動計画策定後、約 10 年間を対象期間として、施策の進捗状況や成果などを踏まえて中間評価を行なうとともに、必要に応じて内容や期間の見直しを行うこととしています。
　広島湾再生推進会議では、今後も取り組みを継続し、毎年再生行動計画のフォローアップを行ないます。

広島湾再生プロジェクトホームページでは、取り組みの紹介のほか、広島湾で学んだり楽しむための情報を掲載しています。
http://www.cgr.mlit.go.jp/chiki/hiroshimawan/index.html

（※6）広島湾再生推進会議
　広島湾の環境修復・保全を推進するため、関係省庁及び関係地方公共団体等が協力して、陸域（流域）と海域（沿岸部を含む）が連携した総合的な広島湾の行動計画を平成19年3月に策定し、これを推進しています。
（参加機関）
　国土交通省中国地方整備局、第六管区海上保安本部、農林水産省中国四国農政局、林野庁近畿中国森林管理局、経済産業省中国経済産業局、環境省中国四国地方環境事務所、広島県、山口県、広島市、呉市